

『ねえ、聞いてよ、ウオンバット!』

〔登場人物〕

ウオンバット・・・オーストラリアから遙か遠く、ねむみの夢の中で

産まれたウオンバット。

ねむみ・・・本名は根元睦美。

昔から授業中によく寝てしまうので、「ねむみ」というあだ名で呼ばれている。

まみ・・・本名は甲斐真美子。ねむみからは「まみてい」と呼ばれている。ねむみの大学の友だち。

つくに・・・演劇ユニット「カミグセ」の主宰。前説をする。

〔場〕

寄りかかっても大丈夫そうな木の柱がある。

大きな窓がひとつあり、外へ出ることが出来る。

窓の前には二人がけのソファがある。

少し離れたところにテーブルがあり、人が向かい合って座ることが出来る。

これらは劇中において、ねむみの部屋、夢の中、カフェ等、様々な場所へと変容する。

開演前。

つくくにが観客の前で、開演直前の前説をする。

つくくに

それでは、間もなく開演しますが、最後にもう一度だけ、携帯電話やスマートフォンなど、音の出る電子機器の電源が切れているか、ご確認をお願いします。あ、ちなみに、アラームの設定をしていると、電源を切ついても勝手に起動して鳴っちゃう機種もあるのでご注意ください。はい、全員切りましたか？あ、ちなみに、今回の公演なんですけれども、上演中に携帯が鳴ったり、バイブが鳴ったりしたら、私の判断で上演を中止します。で、どなたが鳴らしたかをこちらで確認した後、それ以外の方には本日のチケット代をご返金させていただきます。で、鳴らした方に、皆さんのチケット代を全額払ってもらいます。っていうぐらいの勢いで、マジで携帯は鳴らさないでくださいっていう、お願い、です。せつかく来てくださった皆さんにこんなお願いをするなんて悲しいんですけど、最後までどなたにも楽しんでいただきたい、という気持ちで、大変恐縮ながら、お願いします。で、なんでこんなにキツめの言い方をお願いをするかっていうと、もちろん皆さんに作品を集中してご覧いただきたいっていうのと、あと、非常に個人的な話で恐縮なんですけど、わたし一回、自分の作品の上演中に大音量で携帯鳴って、あまりのショックに失神したことあるんですよ。ちなみにその回、終演後にアフター

トークあったんですけど、もちろん全然出られなくて。っていう、なんか、あ、わたしの作品、いま殺されたんだな、みたいな。いや別に、もう当時ほどナイーブじゃないですよ、ですけどやっぱり、すごく大事に頑張って、死にたいけど公演あるからそこまでは死ねないみたいな、なんかそういう・・・

まみ、携帯の着信音を大音量で流しながら、つくくにへ近づく。

つくくに、失神してぶっ倒れる。

ウオンバット、舞台袖から顔を出し、

で、もう話終わった？

強制終了。

（登場しながら）やー、寝かしとけ寝かしとけ。こいつ話なげーんだよ。

ダメ出ししよう。

ミスってもバレねーんだから良いだろ。

ま、そっかー。

まみとウオンバット、つくくにを抱えて舞台袖へはける。

ウオンバット、窓を開け、外へスタンバイ。

まみ、準備ができたのを確認し、

じゃ、はじめまーす。

まみ、手を振りながら舞台袖へはける。

〔2〕

ねむみ、登場。

部屋の中をなんとなく見渡し、柱、床、テーブルなどを、汚れをこそげ落とすように爪でカリカリと擦る。

ウオンバット、ラジカセを担ぎ、窓の外からねむみを見ている。

ねむみ、窓の外のウオンバットに気づき、

ねむみ
え、

ウオンバット、窓を開け、ラジカセから宇多田ヒカルの「ぼくはくま」を流しながら部屋へ入ってくる。腰にはおもちゃの刀を差している。ソファアへ座るとラジカセを置き、くつろぎ始める。

ねむみ
・・・宇多田ヒカル、好きなの？

ウオン
え？

ねむみ
いや、その歌、

ウオン
あー、別に？(ラジカセの曲を止める)

ねむみ
あ、

ウオン
登場用のテーマソング的な感じだから、ほらプロレスとか野球とかでもあんじゃん。

ねむみ
あー、熊だぞー、行くぞー、的な、

ウオン は？

ねむみ え？

ウオン お前いまんつった？

ねむみ え、熊だぞー、

ウオン おい、

ねむみ ……、

ウオン 熊？

ねむみ え、熊、え、

ウオン おっす、おらウオンバット。

ねむみ ……え？

ウオン 故郷オーストラリアから遙か遠く、お前の夢の中で爆誕した由緒

ねむみ え、(歌のメロディーで)ぼくはくま、

ウオン ではない。

ねむみ 紛らわしいな！

ウオン え、じゃあお聞きしますけどー、あなたはご自身が登場される際

に「わたしはにんげーん、人ですよー」って流しながら登場する

んですか？しませんよね？

ねむみ まず登場しないし、

ウオン いやしてつから、いまここにいるから、それは、登場。

ねむみ え、ってどうか待って、ここどこ？

ウオンバット、腰の刀を抜き、

ウオン 覚悟！

ねむみ え？

ウオン はああ！！！

ウオンバット、刀で仰々しくねむみを斬りつける。

ねむみ、これまた仰々しく、赤い紙吹雪を散らしながら倒れる。

ウオンバット、刀を収める。

ねむみ、しばらく倒れていたがすくっと起き上がり、

ねむみ え、なんで斬ったよ。

ウオン え、なんで生き返ったよ。

ねむみ あ、ごめんなさい。

ねむみ、気を遣ってもう一度倒れる。

ウオン え、なんでまた死んだよ。

ねむみ 悪いなと思って、せっかく斬ってくれたのに。

ウオン 江戸の世に生まれなくて本当に良かったなお前。

ねむみ ……え、起きてもいい？

ウオン 起きたきや起きろよ、別にこつちだつて遠慮も理由もなく斬った

んだから。

ねむみ はあ……。

ねむみ、起き上がり、自分で散らした紙吹雪を拾う。

ウオン まめだねえ……。

ねむみ いや、だって自分で汚したし、

ウオン そんな気にすることねーのに。

ねむみ でも、

ウオン どうせぼちぼち終わんだから。

ねむみ え、何が？

ねむみ、振り返る。

さつきまでいたウオンバットはいない。

ねむみ (紙吹雪を拾いながら)正直に言うと、ただ踏みたくないからって

いう、踏まれて汚くなって、ぐしゃぐしゃになったものに触れな

い気がするからだと思う。別にやれと言われれば何だって片付け

られる、この前だってバイト先の居酒屋で客が突然マーライオン

になったけど、私は迅速にそこをシンガポールから日本へ戻し

た、誰もやらないから。だからといって、別にわたしがその「誰

も」だってよくて、それでもわたしが「誰も」の国からはみ出て

しまうのは、多分……、

さつきまでの場所から一転、そこはカフェである。

テーブルには先にまみが座っており、暇そうにしている。

ねむみ っていう夢を見たの。

まみ ……うえ？

ねむみ っていう夢をみたの！

まみ その台詞リアルに使う人初めてだわ。ってか何、ウオンバット

って(スマートフォンで検索しはじめる)。

ねむみ なんか、茶色くて、これくらいの大っき(やないさんのサイズを

両手で示す)で、

まみ かい。

ねむみ まあ夢だし、

まみ あ、これね(ウィキペディアを読み上げ始める)、ウオンバット

は、ふた、まえば、もく？

ねむみ そうぜんしもく、

まみ 双前歯目ウオンバット科に分類される構成種の総称。名前はダル

ク語に由来する、え、ダルク語って何。

ねむみ なんかコアラに近いんだって、で、オーストラリアにいて、

まみ ダルク語とは、パマ・ニューガン語族に属する消滅した言語であ

る、え、ウオンバットって絶滅してんの？

ねむみ だからオーストラリアにいるんだって！まだ生きてる！いつも

思うけど、まみてい、よくその読解力で大学受かったよね。

まみ AO入試ばんざーい。

ねむみ 一般入試ばんざーい……。

まみ わたし、ねむみよりちゃんと授業聞いてるし。

ねむみ まあそれは、

まみ っていうか、岸井先生心配してたよ。

ねむみ え？

まみ ねむみのレポート提出のメールに、毎回「授業中は起きていなさい」って返信してるのに、毎回爆睡してるから。

ねむみ あー……。

まみ この前ねむみ、授業休んだじゃん。あの時にね、授業終わってから岸井先生に声かけられて。「根元さん大丈夫か？あの子なんか忙しいのか？調子悪いのか？君何か知ってる？」って。「ちょっとよく分かんないんですけど、他の授業でもわりと寝てるんですよー」とは言っと思ったけど。

ねむみ そっか……、ごめん。

まみ え、なんで謝るよ。

ねむみ だってなんか心配かけてるし、テスト前とかいつもノート借りたりとか、

まみ まあ、わたしの落書きと暗号みたいな板書が5割を占めるノートをねむみが清書して、結果的にわたしがテスト勉強してるんだけどね。

ねむみ まあそれはある。

まみ むしろよく解読できるよね。

ねむみ 察する力？

まみ 自分で書いたわたしでさえ理解できないノートから一体何を察してるの……。

ねむみ 最初は流石にノート借りる奴間違えたなと思ったけどね。

まみ 一般入試って暗号でも解いてんの？

ねむみ 普通に国語とか数学だよ。

まみ まあ、わたしにとっちゃ多分暗号だろうなあ。

ねむみ むしろAOでもよく受かったよね。

まみ なんか、高校の先生と仲良かったから、全部やってもらった。面接は？

ねむみ ニコニコしてたー。

まみ わたしの高校時代は一体何だったんだ……。
でもいいじゃん、そのおかげでちゃんと勉強できるんだからさあ。

ねむみ 授業寝てるけどね。

まみ でもレポート書けてるじゃん、っていうかわたしの分まで書いてくれるじゃん。

ねむみ だって「書けなーい」って言うから！
普通は書かないって！

まみ そうかなあ。

ねむみ そうだよ。

まみ そっか……。

ねむみ わたし、来週のレポート、自分で書くね。

まみ え、マジ？

ねむみ マジ。だから、ねむみはちゃんと寝なね。

まみ いや、別に寝てないわけじゃ、

ねむみ ちゃんと夜に寝て、朝に起きな。

まみ ……。

ねむみ 朝は気持ちいいよー、降っても晴れても。知らないでしょ？

ねむみ いや、知ってるけど……うん。

まみ それでも夜に寝ないなら、わたしがねむみん家行つて、寝るまで

枕元に立つ。

ねむみ 亡霊か。

まみ 優しさだわ。

ねむみ ……ごめんね。

まみ あーもう、ごめんね禁止条例。

ねむみ だって心配かけてるから、

まみ なんでわたしが勝手に心配したくてしてるのをさ、まるで自分の

荷物みたいに言うのよ。勝手にわたしの心配取らないでくださー

い。

ねむみ ごめ、

まみ ごめんね禁止条例違反、はい今日ねむみのおごりねー！（舞台袖へ

はける）

ねむみ え、マジで！

[3]

ねむみ、ソファーに横向きで寝っ転がり、眠ろうとしている。
なかなか眠れず寝返りをうって仰向けになると、枕元にウオン
バットが立っている。

ねむみ こわっ、

ウオン うるさい。

ねむみ なにやってんの？

ウオン バイトだわ。

ねむみ は？

ウオン 警備。

ねむみ なんの？

ウオン お前の睡眠のだよ！

ねむみ いやそんなガン見されてたら寝れないわ。

ウオン いや寝てっから、お前また斬られたいのか？

ねむみ いいいいやです、結構です。あれ普通に痛かったからね？

ウオン ほっぺつねっても痛くないのに？

ねむみ 刀は流石に。

ウオン 女は痛みに強いと聞いていたからついうっかり。

ねむみ 限度あるから。っていうか、(ウオンバットを差し)男？あ、

ウオン ウオンバットだからオスか。

ウオン あー、どうなんだろう…。

ねむみ え、自分の性別知らないの？

ウオン 考えたことなかった。
ねむみ そんなことある？

ウオン バット、自分のパンツの中を覗き込み、

ウオン どう思う？

ねむみ (ウオンバットのパンツの中を一緒に覗き込み)え、あー、これ

は、んー・・・？

ウオン どう？

ねむみ ブラック、ホール・・・。

ウオン おらもまじまじと見たの初めてだけどこれは、

二人 ブラックホール・・・。

ねむみ、唐突にウオンバットのパンツの中に手を突っ込む。

ウオン おおおおお、

ねむみ (高速で両手を出し入れしながら)シユシユツ。

ウオン こそばゆつ。

ねむみ ブラックホールもくすぐったがるの？

ウオン デリケートゾーンだぞ！

ねむみ あはは。

ウオン ったく・・・。

ねむみ え、他のウオンバットもブラックホールなの？

ウオン さあ。

ねむみ 知らないの？

ウオン だって会ったことねーから。

ねむみ え、だってオーストラリアにいつばいいんでしょ？わたしあの

あとちゃんと調べたんだよ？

ウオン いや、オーストラリアも行ったことねーし、っていうか産まれる

場所間違えたんだよ！お前の夢の中で産まれちゃったんだから

そりゃオーストラリア行ったことねーだろ！

ねむみ え、なんか、ごめん、

まみ、突然舞台袖から顔を出し、イエローカードを持って笛を

吹き、

まみ ごめんね禁止条例違反。

ねむみ あ、そうだ。

ウオン (まみに向かって)お疲れ様です。

まみ、顔を引つ込める。

ねむみ ・・・・行ってみる？

ウオン え？

ねむみ オーストラリア。

ウオン は？

ねむみ 飛んだら行けるっしょ。

ウオン いや、お前自分の体見たことある？羽根どこにも生えてねーから

な？

ねむみ いやいや、出来るんだってば、

ウオン おい、

ねむみ 行くよ？

ねむみ、大ジャンプの末、かつこよく飛行姿勢をとる。しかし、いざ飛んでみると地面ストレスレである。

ウオンバット、真顔でそれを見ている。

ウオン ……いまのご気分は。

ねむみ 思ってたのと違う。

ウオン でしょうね。

ねむみ え、思ってたのと違う！なんかこう、ヒュッ、サッ、ファー、

みたいなやつ、

ウオン まあ完全に地面に体擦こすってたからな。

ねむみ え、前はできたんだよ？ヒュッ、サッ、ファーって。

ウオン いまのところ出来てたのはヒュッまでだな、てかもうそれただのジャンプな。

ねむみ え、どうしよう、(再び飛ぼうとして)ヒュッ、

ウオン やめとけやめとけ！このままじゃ体の前側が大根おろしになるぞ。

ねむみ えーでも、オーストラリア…、

ウオン いいって別に、どうせおらとおんなじ奴がいつばいいるだけなんだから…。

ねむみ ……ごめ、(ハッとして口を押さえる)

まみ、笛を啜すえて舞台袖から顔を出し、セーフのポーズをしてはけていく。

ウオン ……まあ、おらが行けないせいでそんなに落ち込むなら、

いっそ行つたほうがいいかもしんねーけどな。

ねむみ え？

ウオン オーストラリア！

ねむみ え、アレ(先程の飛び方を真似して)で？

ウオン いやいやいやあれは危ないから。あごとかジョリッジョリになるから。

ねむみ え、でもアレしか出来ないし…。

ウオン つたく、一人で何とかしようとすつからいけねーんだよ。

ウオンバット、床に仰向けに寝っ転がり、手足を天井に伸ばして、

ウオン ほら。

ねむみ は？

ウオン 乗れって！

ねむみ いやいや無理でしよって、え？

ウオン やってみなきゃわかんねーだろ？ほら！

ねむみ いやわたし重いし、

ウオン 黙れ51キロ、さっさと乗れ。

ねむみ なんで体重知ってるの？

ウオン お前のことならなんでも知ってるよ！

ねむみ えー、もー、じゃあ、行くよ？重いからね？

ウオン 女子のそういう謙遜マジでうぜーな。

ねむみ うるさい性別ブラックホール。

ウオン 大宇宙と呼べ、大宇宙！

ねむみ はい、行くよ！

ウオン 来い！

ねむみ、ウオンバットの手足に体を乗せ、宙に浮こうとする。

しかし、全然うまくいかず、二人して崩れる。

ウオン やっぱおらの体だけじゃ無理か。

ねむみ 昔はお父さんによくやつてもらってたんだけどなあ、飛行機だよーって。

ウオン お前も大きくなったな。

ねむみ ありがとうお父さん、って違うわ。

ウオン はー、しゃーねえな。おら、いっちょ行ってくるわ。

ねむみ え、何？

ウオン (舞台袖へはけながら)ナンパだよ！

ねむみ ナンパ・・・？

ウオンバット、舞台袖でまみにナンパを仕掛ける。

ねむみ、それを恐る恐る見ている。

ウオン お嬢さん、これから帰るんですかー？

まみ はい。

ウオン あのちょっといま、向こうでイベント的な？やってて、

まみ あ、いいですそういうの。

ウオン いやマジで全然怪しいやつじゃなくて、

ねむみ 十分怪しいわ。

ウオン ちょっと手伝ってくれるだけでいいんすよ、

まみ 大丈夫です。

ねむみ (ウオンバットに向けて)ねー、いいよほんとに・・・。

ウオン いや全然大丈夫じゃなくて、

まみ わたし熊系あんまりって感じなんで。

ねむみ ぷっ(吹き出す)。

ウオン いやだから熊じゃねーし、ってかもうホントお願いします、5分で終わるんで！

まみ え、何するんですか？

ウオン なんか、組体操的な？

まみ 絶対怪しいじゃん。

ウオン 飛行機、あるじゃないですか、あれを一緒にやつてもらって、向こうにいる子を飛ばすっていう、

まみ あ、女の子もいるんですか？

ウオン そうそう、人手がちよっと足りなくて、

まみ えー、じゃあ、ほんとちよっとだけ。

ウオン つしやあー!!じゃ、こつち。

ウオンバット、舞台袖からまみを連れて現れる。

ねむみ まみてい?!

まみ あ、なんだ、ねむみじゃん。

ウオン あ、ここ知り合い?

まみ 大学の友達。

ねむみ ていうかダメだよ、こんな怪しい奴についてっちゃ、

ウオン 誰が怪しい奴だよ。

まみ 怪しいっていうかもはや人じゃないしね。

ウオン ていうか熊系とか言っただけど、ウオンバット。

ねむみ ナンパするウオンバットとかどんだけ人慣れしてんだよ。

まみ ねむみがお友達といるのあんまり見たこと無いけど、なんか

面白いね。

ねむみ え、友達?

ウオンバット、胸をドンッと叩き、自分をアピールする。

まみ 違うの?

ねむみ 友お、うーん、まあ。

ウオン 自信もてよ。

ねむみ うるさいわ。

まみ で、何すればいいの?

ウオン こいつを飛ばす。

まみ おっけー。

ねむみ え、その説明でいけるの?

まみ だって(腕を組体操の土台の形にクロスさせ)こーいうことだし

よ?

ウオン ナイスな人選だったろ。

ねむみ う、うん……。

ウオン じゃあ、

まみ ほいっ。

まみとウオンバット、しゃがんで腕を組み合わせ、組体操の飛行機の状態でスタンバイする。

ねむみ の、乗っていい?

まみ どうぞー。

ねむみ、二人の腕の上につ伏せに乗る。

ねむみ いけそう?

ウオン おーこれ、ちよつと、

まみ え、無理じゃない?

ウオン とりあえず、せーので立つぞ。

まみ マジ?

ウオン せーの!

まみとウオンバット、ねむみを乗せて立ち上がろうとするが、重さに耐えきれず全員崩れ落ちる。

ウオン 腰が……。

ねむみ え、大丈夫？

ウオン いや大丈夫だけど、やっぱ無理か……。

まみ 昔は平気で出来たのにね、運動会とかでやったよねえ？

ねむみ うん、でもなぜ出来ていたのが全く思い出せない……。

まみ 歳だ……。

ウオン どーすっかな……。

まみ あ、これは？(四つん這いになる)

ねむみ え、で？

まみ 上、乗ってみ？

ねむみ え、重いよ？

まみ 多分さっきのよりはこっちのほうが簡単。

ねむみ えー、すごい申し訳無さが……、

ウオン 良いって言うてんだからやってみろよ。

ねむみ わかった……。

ねむみ、四つん這いのまみの上うつ伏せに乗り、両手を広げる。

ねむみ まあ、思ってたよりもだいぶ低いけど……、

ウオン 最初よりはちよっと浮いてんだから十分だろ、完璧を求めたら埒が明かねーぞ。

まみ どう、いい感じ？

ねむみ う、うん！

ウオン じゃ、おらも。

ウオンバット、ねむみの上にまたがろうとするが、足の長さが足りず上手く乗れない。

ねむみ 大丈夫？

ウオン おらも妥協することでしょう。

ウオンバット、四つん這いのまみの下に潜り込み、

ねむみ そこ？

ウオン 行けりゃいいんだよ行けりゃ！

ねむみ そうだけど、

まみ なお、当機の飛行時間は862時間を予定致しております。

二人 はあ？

ウオン え、862時間って何日？

ねむみ 35日とちよつと。

ウオン マジかよーまあ、しゃあねえな、とびうごくと Let's go to

Australia!

ねむみ お！

ウオン 出来たじゃねえか！

ねむみ

そうしてわたしは、いつもより少しだけ高く飛んだ。昔は軽々と持ち上げてくれたお父さんはとくに歳をとって、わたしはどんどん大きくなつて、伸びた身長で広がった視界はわたしをどんどん狭く小さいところに押し込めていくけれど、でも今日は、見えないはずの山とか海とか、もっと遠くの空と雲、その先の大宇宙までが、見えた気が……、

ねむみ、部屋を見渡しているうちに、机の汚れに気づく。

ねむみ

あ……(机に近寄り)、まただ。

ねむみ、机の汚れを執拗に爪でこそぎ落とすし始める。

[4]

数日後、再びカフェにいるねむみとまみ。

まみ

で？

いやそれがさ、結局行けなかったんだよねオーストラリア。

まみ

は？

あまりのフライト時間の長さに途中で目、覚めちゃった。

えー、わたしあんなに頑張ったのに。

いやその節は本当にありがとう、っていうか夢だけ。

次の日マジで筋肉痛やばかったからね。

ねむみ

え、

そんな筋肉痛の中で書き上げたレポートが、こちら。(レポートを

取り出し、ねむみに見せる)

……まずさ、レポートのタイトル、ワードアートにするのは

ヤバイでしょ。何この虹色でドッカーンみたいなの！

なんかいじつたら出てきた。

っていうかまみてい、ポイント数いくつで書いたの？

ポイント？

文字のサイズ。

16、とか？

ねむみ

16……。

まみ

だってA4一枚だったら良いんでしょ？だったら文字大きい方が

書く量減って良いじゃん！

ねむみ いやそうだけど、

まみ でも一応Cはもらえたし。

ねむみ 先生の懐広すぎでしょ、普通こんな受理されないからね？

まみ だって先生と仲良いもん。

ねむみ はぁ……。

まみ でも次はちゃんと字ちっちゃくすると、あと、何だっけ、

ねむみ ワードアート。

まみ タイトルをワードアートにしない。

ねむみ あと書いた日付と文末に引用元の明記。

まみ おっけー。

ねむみ ていうか、わかんなくなったら、わたしが今まで書いたやつ

見な。全部そういうの書いてあるから。

まみ さっすがー。

ねむみ もー、一年の最初に習ったじゃん、レポートの書き方！

まみ そんな昔のこと覚えてないよ。

ねむみ ついこの前だって！

まみ ねむみにはこの前でも、わたしにはずーっと昔なことだってある

よー、時間は誰にでも平等だけど、その内訳は人それぞれなんだから。

ねむみ まみてい、ごく稀にまっとうなことというけど、なんで勉強だけは

そんなに出来ないかね。

まみ 頭をつかう内訳もまた人それぞれなのです。

ねむみ はいはい。

まみ まあ、次こそは筋肉痛じゃない時に書くね。

ねむみ え、だからその筋肉痛、

まみ いやー、流石にあんなに時間かかるとは思わなかったわ、遠いね

ー、オーストラリア。

ねむみ え、あ、うん。

まみ でもいいよー、オーストラリア。

ねむみ え、まみてい行ったことあったっけ？

まみ え、来年度休学して留學行ったじゃん！

ねむみ 来年……？

まみ 買ってくるじゃん、おみやげのクロコダイルジャーキー！

ねむみ 何そのゲテモノ、

まみ え、送るじゃん、ウオンバットの写真！動物園で抱っこしたや

つ！

ねむみ ごめん、待って、

まみ ねむみ、忘れちゃったの……？

ねむみ 忘れちゃったっていうか、え、

まみ ほら、これ！ウオンバットを抱っこした写真を見せる(

ねむみ ……あのウオンバットだ。

まみ でしょ？

ねむみ え、オーストラリアにいるの？

まみ いまはまだいないけど、来年オーストラリアで会ったよ。流石に

わたしのことは覚えてなかったみたいだけど。でも「ねむみの代わりには会いに来たよー」って言ったなら「ギャ」って言うってか

ら、あ、覚えてたんだーって。

ねむみ ……。

まみ ……大丈夫？

ねむみ え、ちよつと、お、お水、

まみ (店員に向かって) すいませーん、

ウオンバット、登場。

ねむみ え?!

まみ お冷もらえますか？

ウオン おう。

ねむみ え、なんでいんの？

まみ 何が？

ねむみ ウオンバット！

ウオン お待たせーい。

ウオンバット、かき氷機を持って登場する。

まみ ありがとうございます。

ねむみ え、いやいや、は？

ウオン (かき氷機をテーブルに置き) お冷。

ねむみ いや冷やし過ぎだし、じゃなくて、なんでいんの？

まみ え、ずっといたよ？(ウオンバットに向けて) ねえ？

ウオン 店員のいない喫茶店って、それただの自動販売機だからな。

ねむみ いやそうだけど、

ウオン さーて、さっさとやるか。

ねむみ え、お冷は？

ウオン 削るんだよ！

まみ かき氷！

ねむみ えー、お水……。

ウオン 溶けたら変わんねーよ、(ねむみに削るよう促す) ほら。

ねむみ え、わたしやるの?!

まみ あ、待っててー！

まみ、一旦はけ、ラジカセを持ってくる。

まみ (ねむみに向かって) 応援してるねー！

ねむみ は？

まみ、ラジカセの再生ボタンを押す。

ねむみ え、なになに、

まみ ねむみが楽しく削れるように応援する。

ねむみ いや、えー……。

ウオン ほら、さっさとやるぞ。

ねむみ (ウオンバットに向かって) もー、この、バカ！

まみ、踊りだす。

ねむみ、氷を削りだす。

ウオンバット、サイリウムを振って応援しだす。

1番が終わり、

まみ 疲れた？

ねむみ いやこれめっちゃ疲れるから。

まみ じゃあ交代ね！

ねむみ え、マジ？ありがとう……。

ねむみ、まみと交代。

ねむみ あ、待ってこれ、踊るの？

まみ (ねむみに向かって)応援してるねー！

ねむみ はあ？！

まみ、氷を削りだす。

ねむみ、わけも分からず踊りだす。

ウオンバット、たまに氷を足しながら応援しだす。

ねむみ (踊りながら)なんか、まみていみたいに出来ない……。

まみ え、いい感じいい感じ！

ねむみ でも、

まみ だいたいでいいんだって、あとは笑って！

ねむみ、なんとか最後まで踊りきる。

かき氷も出来上がり、

まみ できたねー。

ねむみ うん。

まみ あ、何かけるの？

ねむみ わたしブルーハワイ。

まみ いちご！

ウオン お前らベタだな、カルピス。

ねむみ え、この小ささに3種類かけるの？

まみ ぐっちゃぐちゃじゃん、やだー。

ねむみ じゃあ、わたしもいちごかカルピスでいいよ。

まみ え、

ウオン つたくしゃーねえな、貸してみそ。

ウオンバット、かき氷に向かって大きなくしゃみをする。

ねむみ うわきつたな！

まみ 最悪なんだけど。

ウオン いやいや、食ってみ？

ねむみ は？

まみ いや無理だし。

ウオン いいから！食べえ！

全員、スプーンを持ち、

三人 いただきます……。

全員同時にかき氷を食べる。

すると、それぞれが食べたかった味がする。

ねむみ んー！ブルーハワイ！

まみ いちご！

ウオン からの、カルピス。

ねむみ うっさいわ。

まみ 何これ、魔法？

ウオン まあ、だいたいそんなもん？

まみ すごーい！

ウオン 見た目で判断すつとバチ当たんど。

ねむみ いやするわ。

まみ でも美味しいから良いじゃん。

ねむみ うん、まあね。

ウオン (まみの真似をして)でも美味しいから良いじゃん。

ねむみ お前は黙っとけ。

まみ ほらねむみ、いちごのところも食べなよ。

ウオン カルピスんところも食っていいぞ。

ねむみ ああ、ありがとう。

ねむみ、かき氷を食べる。

ねむみ ……美味しい。

まみ 良かったね。

ねむみ うん……あ、頭、

ウオン キーンって来た？

ねむみ んんんん、でもこれが、たまらん！

ウオン それな。

ねむみ ……あ、待って、

まみ どうしたの？

ねむみ 歯、

まみ 知覚過敏？

ねむみ じゃなくて、なんか、グラグラしてる……？

まみ え、

ねむみ もう皮一枚っていうか、

ウオン 上の歯……

まみ 下の歯……

ウオン 前歯……

まみ 奥歯……

二人 どれ？

ねむみ (モゴモゴしながら)下の歯、あ、やばいクルクルしてずれちゃっ

た！

まみ あとちよつとじゃん！

ウオン 紐つけて引っ張るか？

ねむみ (モゴモゴしながら)やだやだやだやだ！

ウオン じゃあ頑張れ！

ねむみ (モゴモゴしながら)何を？

ウオン クルクルするんだよ！

ねむみ (モゴモゴしながら) あ、また!

ねむみ、抜けた歯を掌てのひらに乗せ、

ねむみ せーのっ!(歯を屋根の上へ投げる)
まみ (手を合わせて) ねむみの歯が、遠慮なく伸びていきますように。

三人 確か……。

まみ え、ねむみの乳歯めっちゃ育ってんじゃん。

ウオン カルシウム取り過ぎ。

ねむみ 給食の時間、毎日2本牛乳飲んだ。

ウオン それだな。

ねむみ にしても、立派。

まみ なんか縁起良さそうだね。

ウオン 確かに。

まみ 投げとく?

ねむみ え、投げる?

まみ 歯、投げなかった? 下の歯だったら上に、上の歯だったら下に、よく伸びますようにって。

ねむみ へえ……(ウオンバットに向かって) 知ってた?

ウオン おらの歯は一生伸び続けっから。

ねむみ あっそ。

まみ え、投げようよー!

ねむみ まあ、持ってもしょうがないしね。

まみ、窓を開ける。

全員、窓際へ集まり、

全員、手を合わせて祈る。

ねむみが祈り続けるうちに、まみとウオンバットは消えていく。

いつ夢を見たかもう思い出せないのと同じように、いつ目覚めたかもう思い出せない夢の中。

ねむみ

梅雨になるといつも思い出すのは、小学校の校庭の脇に生えていた桜の木のこと。桜といえは春だけど、わたしは桜が嫌いだった。咲いている時期はまだいい、問題は散ったあとで、校庭脇のアスファルトの上で、踏まれてぐしゃぐしゃになった桜を踏むのがどうしても嫌で、だからといって校庭の真ん中を突っ切っていこうとすると、職員室から先生が大声で叫ぶ、「校庭を歩くな、汚くなるだろ！」。一時間目にもし体育があったら、その30分後くらいには校庭の綺麗なブラシがけの跡はなくなってしまうのに、どうしてわたしはそこを歩いちゃいけないのか、ずっと分からなくて……

ウオンバット、ねむみの話を聞いているのかいないのか、ウトウトとしている。

ねむみ

ねえ、聞いてよ、

ウオン

あ、ごめん、何？

ねむみ

わたしの話。いつも気がつくといなくなっちゃうじゃん。

ウオン

別にいる、って言われた覚えは無い。

ねむみ

そうだけど、でもいつも最後まで聞いてくれないし。

ウオン じゃあその話、おらに聞いてほしくて話してたか？

ねむみ え？

ウオン お前がただ話したくて話してただけで、別におらは聞かせてくれだなんて一度も言ってないぞ。

ねむみ そうだけど、

ウオン

おらはお前の夢の中にしかいない。だから、お前の思い通りだ。じゃあまみていは？まみていだったってお前の友達だから話を聞いてくれる、あいつ良い奴だよなあ。

ねむみ

まみていは親友だし、よく話すし、

ウオン

じゃあそれ以外の人は？

ねむみ

……？

ウオン

バイト先の人は？大学の教授は？親は？

ねむみ

それは別に、

ウオン

話したくないか？

ねむみ

ねえ、なんで突然そんなこと言うの？

ウオン

……おらだって目が覚めそうなんだよ。

ねむみ

さつき眠そうにしてたじゃん。

ウオン

だから、次に眠る時は、

ねむみ

あ……そういうことか……。

ウオン

え？

ねむみ

いや、何でもない、何でもないけど、分かった。

ウオン

だから、心配してんだよ。

ねむみ

うん。

ウオン

……で、何だっけ、話、

ねむみ え、ああ、桜の、

ウオン 続きは？

ねむみ 続き、話していいの？

ウオン ここではお前のお好きなように、っていうか遠慮すんなって！

何度言ったらわかんだよ！

ねむみ だって、わたしの話、別に面白くない、

ウオン 面白い話だけで世の中回るか？

ねむみ そうだけど、

ウオン じゃあ話せ。

ねむみ うん。

ウオン そんなにお前が面白くないって思うなら、おらも面白くなさそう

に話聞いわ。

ねむみ ひと。

ウオン 練習だよ。

ねむみ 何の？

ウオン お話の練習。話したいことは何があっても最後まで言えよ。

・・・わかった。

ウオン バット、あえてダラダラとしたり、ねむみの話を何とな

く邪魔したりする。

ねむみ それで、そう、ちょうどこの梅雨の時期が一番最悪で、桜の木

から毛虫が落ちる。それがまた踏まれて、校庭脇のアスファルト

は潰れた毛虫で一面緑色になった。あの頃の男子なんかは特に

喜んで踏んでいくから、汚いピンクだった桜並木は緑色の墓場

なる。そんなの通りたくない、絶対に通りたくないのに、今日も

先生は理不尽に大声で叫ぶ、「校庭を歩くな、汚くなるだろ！」。

汚いのはどっちだよって、もう明らかにアスファルトのほう

汚いし、毛虫だって降ってくるのに、その中を先生に言われた

通り毎日ちゃんとわたしは歩いて、そんなことも、小学校を卒業

する頃にはもうどうでも良くなったけど、ずっと、どうしてこん

な思いをしてまでここを歩かなきゃいけないんだろうって、思っ

ていた、ずっと。そういえば、卒業してから、あの小学校にはも

う一度も行っていない。

ウオン ……で、もう話終わった？

ねむみ あ、うん。

ウオン さっさと鼻くそほじりたくてさ。

ねむみ うっわ……。

ウオン ムズムズすんのさつきから、お前の毛虫の話聞いてたら、鼻の穴

の中毛虫の毛だらけになっちゃった。

ねむみ ええええやだやだやだ、

ウオン だからちよっと行くわ、(去ろうとする)

ねむみ え、あ、

ウオン なに？

ねむみ ……わたしも、わたしも鼻くそが、ほじりたい。

ウオン ……え、ほじれば？

ねむみ あ、うん……え、ここで？

ウオン いいだろ、別に誰も見てないし。

ねむみ いや見てんじゃんあんた。

ウオン 自然界で鼻くそごときに遠慮してたら鷹に食われて死ぬぞ。

ねむみ 死なねーよ。

ウオン いや死ぬよ。

ねむみ 死なねーって。

ウオン 死にかけてるくせに。

ねむみ ……。

ウオン 死にかけてるくせに……な？

ねむみ 小学校のトイレの個室の壁に、よく鼻くそが擦り付けてあって、

なんで壁なんだろう、せめてティッシュに包んで流せばいいのに
って、ずっと思っていた。2クラスでひと学年の小さなコミュニ

ティで、そのトイレを使う女子はせいぜい30人。トイレの外で
は仲良くしているうちの誰かが、この狭い個室で慎ましやかに

自我を爆発させながら鼻くそを壁へと擦り付けている。いや別
に、当人はそんなこと多分全然思っなくて、ただなんとなく

ほじりたくて、ただなんとなく癖で壁に擦りつけちゃったって
いうだけなんだろうけど、その痕跡を見るたびに何故だかどうし

ようもなく悔しくなって、誰かは知らない仲良しの友達の鼻くそ
を、(柱に近づきながら)いつも壁からこそげ落としてなきものに

していた。(柱の汚れを擦ろうとする)

ウオン

ねむみ！

ねむみ、ハツとして汚れを擦ろうとした手を止める。

ねむみ それで私は私の鼻くそを、ちゃんとティッシュに包んで流した。

ウオン ……準備できた？

ねむみ え、準備いる？

ウオン え、心の準備なくていける系？

ねむみ むしろなにを準備するべきかわからない系。

ウオン このビギナーめが。(指をパチンと鳴らす)

まみ、アルコールジェルを持って登場。

ウオン 清めよ。

ねむみ あ、はい。(アルコールジェルを手につける)

ウオン (爪切りを取り出し)爪切るー？

ねむみ あ、大丈夫。

ウオン 勝負の夜はいつも深爪、これ鉄則だからな。

ねむみ は？

まみ 応援してるねー。

まみ、アルコールジェルを持って消える。

ねむみ あーりがとおー……。

ウオン じゃ、いくか。

ねむみ うん。(手で鼻を隠して)

ウオン おい。

ねむみ ん？

ウオン 手。

ねむみ ？(ほじる指を出して)

ウオン 逆だよ。

ねむみ ？(鼻を隠していたほうの手を出して)

ウオン 日和ってんじゃないよ。

ねむみ いや流石に隠すわ。

ウオン そういうところだよ、諦めろ！やるならやる、やらないならやら

ねむみ ない！真の美しさはすべてを削ぎ落とした先に残る一筋の光！

ねむみ めっちゃ哲学。

ウオン やりやわかるよ、もう20とうん年生きてりやとてもおててじゃ

ねむみ 隠しきれないような涙おろが溜まってんだから。

ねむみ ……はい。

ウオン よっしゃ。(構える)

ねむみ あ、最後に一個だけ、

ウオン もうなんだよ！

ねむみ あの、来年、まみていによるしくね。

ウオン は？

ねむみ まみていがね、会いに行くから、オーストラリアに。

ウオン え、おら、オーストラリア行くの？

ねむみ 行けるよ。

ウオン マジかよ！

ねむみ マジ。もー、わたしのことはなんでも分かるくせに、自分のこと

は全然分かんないんだから。

ウオン 性別とかな。

ねむみ 産まれたら分かるよ、きつと。

ウオン ……おう。

ねむみ じゃあ、お願いします。

ウオン しゃあつ。(構える)

ねむみ、指を鼻に入れようとする。

その寸前、まみがモザイクを持って登場。

まみ、適宜出てくる鼻くそにビビる。

ねむみ ん、おお、え、お、え、え、待ってこれ、

ウオン どうした。

ねむみ なんかつい、え、どうしよう

ウオン え、

ねむみ なんていうか、長い。

ウオン え、

ウオン バットもねむみに駆け寄り、ねむみの鼻を覗き込む。

ウオン おおおお！！！！(ねむみの鼻くそを引っ張る)

ねむみの鼻から、注連縄のようなしつかりとたくましく長い

鼻くそが伸びてくる。鼻くそには、昔の履歴書やらテストやら写真やらがぶら下がっている。

[6]

ねむみ、歯を磨きながら、窓の外を見ている。
夜眠る前にも、朝起きた後にも、だいたいの方は歯を磨く。

ウオン　これは一世一代の大捕物だ！

ねむみ　すごい！

ウオン　気を抜くなよ、すぐに足元すくわれるぞ！

ねむみ　鼻くそに？

ウオン　鼻くそにだってすくいたい足の一つや二つあるんだよ！

ねむみ　知るか！

ウオン　いいぞ！その調子だ！いくぞ！

無断複製・転写を禁じます。

作品に関するお問い合わせ、上演許可等につきましては、カミグセ
(info@kamiguse.com)までお問い合わせください。

ウオンバット、小さくて豪華な大漁旗を取り出し、振る。

そのままねむみの鼻くそを引っ張り、先導しながらはける。

まみ、それに続いて手を振りながらはける。